

# 労働映画百選通信 No.11 2016.09

発行 ■ NPO法人 働く文化ネット 編集 ■ 清水浩之 〒101-0062 千代田区神田駿河台3-2-11 連合会館5F

## 6月11日発表！ 日本の労働映画百選 <http://hatarakubunka.net/>

『明治の日本』(1897)から『下町ロケット』(2015)まで！ “働く姿”を描いた百本をセレクト

映画は日本の仕事と暮らし、働く人たちの悩みと希望、働くことの意義と喜びをどのように描いてきたのか。働くことの今とこれからについて考えるために、一世紀余の映画史の中から百本を選びました。

特定非営利活動法人 働く文化ネット・労働映画百選 選考委員会

明治の日本/川崎三菱労働争議/何が彼女をそうさせたか/第十二回東京メーデー/隅田川/生れてはみたけれど有りがたうさん/戦ふ兵隊/煉瓦女工/機関車C57/或る保姆の記録/わたし達はこんなに働いてゐる/轟進/炭坑われら電気労働者/海に生きる/白雪先生と子供たち/どっこい生きてる/生きる/おかあさん/1952年メーデーひとり大地を行く/蟹工船/京浜労働者/太陽のない街/立ち上がる女子労働者/ここに泉あり/赤線地帯喜びも悲しみも幾歳月/ボタ山の絵日記/雪と闘う機関車/にあちゃん/海に築く製鉄所/刈り切り唄/年輪の秘密大いなる旅路/裸の島/1960年6月 安保への怒り/西陣/キューボラのある街/その場所に女ありて/ある機関助手ドキュメント 路上/68の車輪/こころの山脈/若者たち/農業禍/和賀郡和賀町/黒部の太陽太陽の王子 ホルスの大冒険/男はつらいよ/シブヤードの青春/家族/戦争と人間 三部作/友子儀式/日本の稲作詩人の生涯/トラック野郎 御意見無用/どっこい！人間節/日没の印象/男たちの旅路/日本の戦後あゝ野麦峠/ザ・サカナマン/速雷/海峡/原発はいま/魚影の群れ/ガン・ホー/マルサの女/母さんが死んだ魔女の宅急便/あーす/月はどっちに出ている/踊る大捜査線/鯨捕りの海/鉄道員 ぽっぽや人らしく生きよう 国労冬物語/こんぼんは/県庁の星/フラガール/三池 終わらない炭鉱の物語/ハゲタカハケンの品格/おくりびと/フツウの仕事がしたい/ブラック会社に勤めてるんだが、もう俺は限界かもしれない 任侠ヘルパー/孤高のメス/昭和の家事/サウダーチ/舟を編む/ある精肉店のはなし/ダンダリン 労働基準監督官 WOOD JOB!/紙の月/夢は牛のお医者さん/昼めし旅/種まく旅人 くにうみの郷/下町ロケット

【上映情報】労働映画列島！9月 ※《労働映画列島》で検索！ <http://d.hatena.ne.jp/shimizu4310/00160903>

### ◎新作ロードショー

後妻業の女 《8月27日(土)から 東京 TOHOシネマズ日劇ほかで公開》

黒川博行の小説を大竹しのぶ主演で映画化。独り身の高齢男性の後妻におさまり、その資産を狙う女を主人公に、欲にとりつかれた現代人をユーモアを交えて描く。(2016年 日本 監督/鶴橋康夫) <http://www.gosaigy.com/>

ティエリー・トグドローの憂鬱 《8月27日(土)から 東京 ヒューマンラストシネマ渋谷ほかで公開》

フランスで大ヒットした社会派ドラマ。スーパーマーケットの警備員に再就職した男。買い物客だけでなく、同僚たちの不正も監視する役目を負わされるが…。(2015年 フランス 監督/ステファヌ・ブリゼ) <http://measure-of-man.jp/>

みかんの丘/とうもろこしの島 《9月17日(土)から 東京 岩波ホールで公開、全国順次公開予定》

グルジア(ジョージア)映画2作品を同時公開。『とうもろこしの島』…ジョージアとアブハジア自治共和国の間にある島で、両国の兵士がにらみ合う中、淡々ととうもろこし畑を耕す老人と少女の姿を映す。 <http://www.iwanami-hall.com/>

### ◎名画座・特集上映

- 【札幌シネマフロンティア/ほか全国55館】9/10～10/7「午前十時の映画祭」…生きる(1952)/いまを生きる(1989)
- 【フォーラム山形】9/10～12「YIDFFプレイベント 山の恵みの映画たち」…黒部の太陽/里馬の森から/越後奥三面/他
- 【東京 神保町シアター】8/27～9/30「伝説の女優・原節子」…お嬢さん乾杯/めし/東京の恋人/他
- 【東京 池袋 新文芸座】9/16・18「エルマン・オルミ 青春トリロジー」…時は止まりぬ/就職/婚約者たち
- 【東京 新宿 K's cinema】9/17～10/7「山形 在東京 2016」…青年★趙(中国)/太陽花占拠(台湾)/他
- 【東京 小石川図書館】9/19「シネマ楽座」…『ここに泉あり』(1955年/監督・今井正) 井坂能行氏の解説あり
- 【東京 東大和市ハミングホール】9/30・10/1「秋の音楽・歌謡映画まつり」…大学の若大将/君も出世ができる/他
- 【横浜 黄金町 ジャック&ベティ】8/27～9/10「西川美和×大崎章特集」…夢売るふたり/ゆれる/お盆の弟/他
- 【金沢都ホテルB2セミナーホール】9/17～25「カナザワ映画祭2016」…ファイトクラブ/山谷 やられたらやりかえせ/他
- 【大阪 九条 シネ・ヌーヴォ】9/3～16「追悼 永遠の女優・原節子」…北の三人/殿様ホテル/女医の診察室/他
- 【広島市映像文化ライブラリー】8/27～9/28「ヤマガタ in 広島」…たむろする男たち/ミーナーについてのお話/他
- 【福岡市総合図書館 シネラ】9/1～25「日本映画名作選」…妻よ薔薇のやうに/風のあるページお/阿賀に生きる/他
- 【宮崎キネマ館】9/17～24「第22回 宮崎映画祭」…百円の恋/あん/恋恋風塵/他

【作品ガイド】『ノンママ白書』 文:波多楽久

2016年8月13日スタート 毎週土曜23:40から フジテレビ系(全8回予定)  
 制作■東海テレビ・共同テレビジョン 脚本■伴一彦 演出■佐藤祐市 ほか  
 出演■鈴木保奈美 菊池桃子 渡辺真起子 高橋克典 濱田崇裕 ほか



昼ドラの老舗・東海テレビが放つ「雇均法」第一世代の挽歌

「この国は、女性にとって発展途上国だ。」……今年7月、化粧品メーカー・ポーラが発表したCMが反響を呼んだ。「限られたチャンス、立ちほだかるアンフェア」という職場の現実を直視しながら、「自分という旗を立てよう」とエールを送る内容で、30秒間の映像では、女性たちが職場で葛藤する「一瞬」を切り取っていく。「雇均法」=男女雇用機会均等法の施行からちょうど30年経った今もなお、数多の壁に立ち向かわざるを得ない実態を鮮やかに描いたこのCMは、今年を代表する1本として記憶されるだろう。

テレビドラマでは、8月にスタートした『ノンママ白書』が回を追うごとに面白くなってきている。「雇均法」第一世代の50歳、中堅広告代理店で“女性初の管理職”になった主人公・鈴木保奈美が、上司の世代の無理解と、個人主義を貫く若い世代の板挟みになりながら奮闘するサラリーウーマン・コメディ。かつて「仕事か出産か」を選ばなければならなかったアラフィフ世代(鈴木、菊池桃子、渡辺真起子)と、「仕事も出産も」選ぶよう(国から)望まれているアラサー世代(内山理名、南沢奈央ほか)との対立・衝突が、ドラマの軸となっている。

主な舞台となるのは、主人公の行きつけのバー。ここで人事部勤務の独身OL、夫と二人暮らしのフリーライターと待ち合わせて、「ノンママ(子どものいない)」3人組がそれぞれの職場での体験を語り合うというスタイル。かつてのサラリーマン映画では、飲み屋でクダを巻くのは男の役割だったが、2016年には女性が「ワーママ(働くママ)」「時短(短時間勤務)」「逆セクハラ」「シニア婚活」など議論していて、どこか近未来っぽい。鈴木保奈美、菊池桃子という、トレンドドラマのアイコンのような人たちが「昔は楽しかったな〜」などと呟きながら今の職場を批評する流れは、同世代には痛いほど「わかる」し、下の世代には「歴史の勉強」にもなると思う。

制作局は、名古屋に本社を置く東海テレビ。1964年から半世紀にわたり「昼の帯ドラマ」を作り続け、『愛の嵐』(1986)『真珠夫人』(2002)『牡丹と薔薇』(2004)などのヒット作を送り出してきたが、平日の午後にテレビを見る主婦層が減ってしまったため、今年3月で長い歴史に幕を下ろし、土曜の夜に異動してきた。時代ごとの女性の生き方を描き続けてきた伝統があるので、これからもお得意の「愛憎路線」とともに、現代社会で働く女性を主人公にした作品を期待したい。

NPO法人 働く文化ネット 労働映画鑑賞会

【2016年7～9月期】 統一テーマ:働くこと、生きること、つながること

第31回 ～生きる希望としての学び～

上映作品:『こんばんは』(2003年/92分)【労働映画百選 No.79】

- ・開催日:2016年 9月 8日(木) 18:30～(18:00開場)
- ・会場:連合会館 201会議室(地下鉄 新御茶ノ水駅 B3出口すぐ)

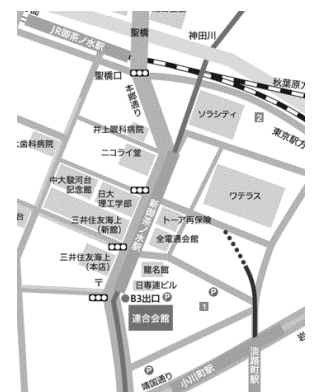
2016年7～9月期は、4～6月期に引き続き、「働くこと、生きること、つながること」を統一テーマとします。今回取り上げるのは、東京、墨田区立文花中学校の夜間学級で学ぶ17歳から92歳までの生徒たち、そして先生たちの学びの実践の記録映画です。映画のスタッフは撮影開始前に1年近く教室に通い、それから1年半撮影を重ねて、作品を完成させました。この夜間学級は、山田洋次監督の『学校』(1993年)の原点になったといわれます。ぜひ多くの方々に鑑賞していただきたいと思います。ご来場をお待ち申し上げます。

【プログラム】

- 18:30～20:05 上映
- 20:05～20:30 制作スタッフの方のお話を予定しています。

『こんばんは』(2003年/92分/カラー)

監督:森康行 構成:古賀美岐 撮影:川越道彦 プロデューサー:中橋真紀人  
 《東京・墨田区立文花中で学ぶ17歳から92歳までの生徒たち。  
 教育の原点としての夜間中学の記録。》



【労働映画のスターたち】第11回「フランキー堺」文：百永良武

「首が飛んでも動いてみせまァ！」戦後を駆け抜けた辣腕仕事師

「どうせ旦那方は、百姓町人から絞り上げたオカミの金で、やれ攘夷の勤皇のと騒ぎ回ってりゃ済むだろうが、こちとら町人はそうはいかねえ。てめえ一人の才覚で世渡りするからにや、へへッ、首が飛んでも動いてみせまァ！」

「フラさん」としてフランキー堺の代表作は、なんといっても『幕末太陽傳』(1957、監督・川島雄三)。維新前夜の江戸・品川宿を舞台に、金も持たずに遊郭にやってきた男・佐平次が、類稀なる要領の良さで「旋風」を巻き起こす時代劇コメディ。住み込みで働いて代金を払う「居残りさん」という、本来肩身が狭い筈の男が、八面六臂の大活躍で周囲の人々の信頼を集めていく。この3年前に映画製作を再開した日活には若手と中堅しかいなかったため、当時まだ28歳、ジャズ・ミュージシャン出身の「新人」が主役に抜擢されたわけだが、フラさんは軽快な身のこなしと抜群のリズム感、女も男も魅了する明るいキャラクターで、今まで見たこともない「ヒーロー」像を作り上げた。

冒頭の佐平次のセリフ「首が飛んでも…」は、歌舞伎の「四谷怪談」でお馴染みの科白で、彼を幕府のスパイではないかと疑った攘夷派の志士・高杉晋作(石原裕次郎)に刃を向けられた時のもの。独力で「世渡り」してきた自負があるから、宮仕えのお侍なんか怖くない……今ならフリーランスの労働者が、正社員に向かって言いそうだ。一方で、佐平次は自身の「フリーな立場」を十分わきまえ、周りの人からの頼まれごとは基本的に断らない。三角関係の仲裁から駆け落ちの段取り、異人館の見取り図の調達までやってのけ、みんなを少し幸せにして去っていく仕事ぶりは、まさにフリーランスの鑑だ。そして、こうした仕事への姿勢や生き方は、その後の様々な役柄にも一貫して反映されていると思う。「フリーランス堺」としてフラさんの足跡を、労働映画の視点から辿ってみよう。

1929年・昭和4年に鹿児島で誕生。本名は堺正俊。小学校の時に東京・池上に引っ越す。子どもの頃から人を楽しませるのに長けてはいたが、決定打となったのは真珠湾攻撃の翌年(1942年)、麻布中学に入学したことだろう。同期に加藤武、なだいなだ、小沢昭一、仲谷昇などの「逸材」が揃った環境で、エンターテナーとしての才能を開花させていく。当時、仲間内で流行ったジョークに「電流遊び」というのがあって、学生服のボタンを押された者は、いつでも、どこでも感電したフリをしなくてはならないルールだが、英語の授業中にボタンを押されたフラさんは、教師に心配されるほど見事な「感電」を披露したという。太平洋戦争の最中に、こうした遊びに熱中していた人は「鍛え方が違う」としか言いようがない。

終戦後は演劇と音楽に没頭。慶應大学の劇研では、既に老け役の名手として知られた。友人宅にあったドラムセットとの出会いからジャズバンドに加わり、進駐軍相手のクラブで演奏する際に、アメリカ兵が声を掛けやすくしようと「フランキー」を名乗る。1950年代初頭、ジョージ川口、江利チエミなどと共に「ジャズブーム」の旗手として注目され、当時の学生ミュージシャンたちを描いた映画『青春ジャズ娘』(1953、松林宗恵)で、俳優としてデビューした。

1955年、水の江瀧子プロデューサーの誘いで日活へ。森永乳業提供のラジオドラマを基にした主演作『牛乳屋フランキー』(1956、中平康)は、腰に巻いたガンベルトに牛乳瓶を差し、二丁拳銃のように抜いて配達するなど、スラップスティックなギャグ満載の傑作。ミュージシャンとしても、アメリカの“冗談音楽の王様”スパイク・ジョーンズに心酔して「シティ・スリッカーズ」を結成。バケツや鋸、サイレンなど、あらゆる物を楽器にするアチャカラ音楽を追究する。ここには植木等や谷啓ら、後の「クレージーキャッツ」のメンバーが参加していた。

若手の喜劇俳優として人気上昇中のまさにその時、奇才・川島雄三監督と出会ったことで『幕末太陽傳』が生まれ、「熱狂と孤独」の両方を演じられるキャラクターが一躍注目された。1958年、川島の後を追って東宝系の東京映画に移籍。森繁久彌・伴淳三郎とのトリオで人気シリーズとなった『駅前旅館』(1958、豊田四郎)、川島が若手脚本家・藤本義一と共に創作した奇人変人バラエティ『貸間あり』(1959)などで、水を得た魚のように「なんでも器用にこなす男」を演じた。

《次頁へ続く》



青春ジャズ娘(1953)



牛乳屋フランキー(1956)



幕末太陽傳(1957)



駅前旅館(1958)



貸間あり(1959)

庶民の人生を「演じる」のではなく「生きる」

同じ頃に、テレビ草創期のドラマ『私は貝になりたい』(1958、TBS)で、戦時中の捕虜殺害事件の罪を着せられた理髪師を演じる。生放送のドラマという難しい状況の中、その役を「演じる」のではなく「生きる」ことが大事なのだど気が付いたそうで、スクープに取り憑かれたニュースカメラマンを演じた『ぶつつけ本番』(1958、佐伯幸三)、核戦争による“地球最後の日”を家族とともに迎える運転手に扮した『世界大戦争』(1961、松林宗恵)などのシリアスな作品でも、それぞれの人生を「生きている」様子が高く評価された。

1964年、東京オリンピックの外国人客を迎える観光業界を、ブロードウェイ・ミュージカル形式で描いた野心作『君も出世ができる』(監督・須川栄三)では、文字通り「飛んだり跳ねたり」のハッスル社員を熱演。早口のセリフと切れのいいダンスでスクリーンを暴れ回ったが、興行的には不発で、フラさんの「動き」を楽しめる作品は、これが最後となった。

この前年には恩師・川島が急逝。「次回作は写楽」と呟いた川島の遺志を継ぎ、映画化に向けた写楽研究に取り組み続ける。こうした研究熱心さがフラさんらしさと言えそうで、1967年には参院選出馬の誘いを断って、設立から間もない大阪芸術大学で教鞭をとるようになる。

その後は、急行列車の車掌に扮した『旅行』シリーズ(1968～72、瀬川昌治)、落語家・春風亭柳昇の兵役時代を描いた『与太郎戦記』(1969、弓削太郎)、叩き上げの庶民派検事に扮した『赤かぶ検事奮戦記』(1980～92、朝日放送)などが人気を集める。一方で、前田陽一監督の『喜劇 あゝ軍歌』(1970)『喜劇 男の子守唄』(1972)などは、戦中派世代の怒りをエネルギーに描いた「重喜劇」となった。東映のヤクザ映画『日本の仁義』(1977、中島貞夫)でも、引退した親分・鶴田浩二への忠義を忘れない組長を演じ、一見古風だが温かみのある人物像が東映ファンにも好評だった。

川島の死から32年後。フラさんは「製作総指揮・脚本」として、遂に映画『写楽』(1995、篠田正浩)を実現させた。絢爛豪華な江戸文化を再現した超大作となったが、「熱狂と孤独」が影を潜めてしまったのは惜まれる。『幕末太陽傳』は、当時間近に迫っていた赤線廃止をモチーフにした「髷をつけた現代劇」という要素があったわけで、そうした意味では、往年の名作時代劇をフラさん主演でリメイクした『人情紙風船』(1978、NHK)、『国士無双』(1986、保坂延彦)の方が、「現代性」をうまく融合させていた気がする。

ライフワーク「写楽」から解放された翌年、フラさんは67歳でこの世を去るが、亡くなる直前に撮影されたNHKドラマ『ぜいたくな家族』(1996、脚本・田中晶子)は、仕事師・フラさんの置き土産にふさわしい佳作だ。役どころは鉄工所の老経営者。「世の中に、面倒くさくない仕事なんてあるのかね?」と呟く職人気質だが、現在の取引先の、コストしか見ない姿勢に飽き飽きしている。長年連れ添った妻(渡辺美佐子)には癌の不安が忍び寄り、自慢の息子たち(中本賢、玉置浩二)も失業中……。自らの人生を見つめ直す日々を、フラさんが泰然と「生きる」ように演じている。そして物語の終盤、不仲だった長男と和解するため、頑固な父は「頑固さゆえの」ユーモアで突破口を開くのだ!(このオチは現在YouTubeで見ることができます)

フランキー堺、今年に没後20年。同世代のライバル・渥美清さんが「不器用な優しさ」を磨き上げたとすれば、フラさんは「上品な温かさ」をキープし続けた気がする。仕事熱心で研究熱心、情の深さも人一倍。そんなステキなおじさんになりたいものです。

(参考文献「芸夢感覚 フランキー人生劇場」フランキー堺・著 集英社 1993年)

8月14日(日)から10月15日(土)まで 東京・ラピュタ阿佐ヶ谷で  
特集上映《稀代のエンターテイナー! フランキー太陽傳》開催中  
初主演作『猿飛佐助』(1955)から『写楽』(1995)までの36作品を上映。  
<http://www.laputa-jp.com/>



私は貝になりたい (1958)



ぶつつけ本番 (1958)



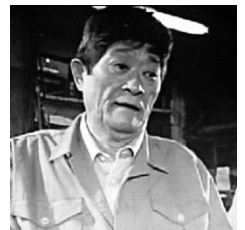
君も出世ができる (1964)



日本の仁義 (1977)



国士無双 (1986)



ぜいたくな家族 (1996)